



Member's Open Space



「五十年の歩み」に寄せて

●美唄歯科医師会会員
宝崎 幸子

「道歯会通信美唄特集号が5月に掲載されます。皆さん、3月いっぱいには原稿の方お願いしまーす」と1月恒例の新年会の席上、担当の方からの通達です。

全道一小さな会「びばい」歯科医師会、当会は昨年新生美唄歯科医師会として50周年を迎えるに当たり、記念事業として記念誌発行を計画し、一年がかりで暮れに完成いたしました。出来上がってみれば110頁ちょっとの物ですが、発行までのみなみならぬ苦勞、そしてその努力たるや、それはそれは筆舌につくしがたく、実行委員長はじめ編集委員長、編集委員他全会員の汗と涙の結晶とは少々大げさな表現ではありますが、皆の記念誌によせる心からなる熱意が、このしつとりと落ち着いた、濃紺布クロス張りの「五十年の歩み」のな

かにしつかりと収められております。

元会員で故人になられた先生の奥さんが「五十年の歩み」を手にしたとき「懐かしさのあまり仏壇に供えて亡き主人に報告しました」という礼状や、それぞれ関係の先生や家族の方々から感謝の言葉や、家の宝にしたいという声が届いていると聞いております。

記念誌編集に全エネルギーを費やしてしまった私は？次の原稿にはなかなかとりつけなく書類の整理をしておりましたら、古い詩帳が出てまいりましてその中に、このようなもの凄いのがありました。

保険書類 ^{うづたか} また堆し 師走来る

(昭和40年代)

ふるさとの山

美唄歯科医師会会員 宝崎 幸子

もう春がやって来たよ

思っておりましてのに又雪が

春あらしピンネは雪を又かづく

ニ笠岡山のあたりからピンネの姿を

左手に眺めながら国道十二号を北へ向かうとき

ピンネ山雪まだ深う春を待つ

里で雪が融けて黒い土が見えてくるころ

山肌は青味を帯びてきます

春近しピンネ山はだ青みつつ